

強者の国語・〔古文・問題編〕

東京大学の過去問（二〇〇二年）です。東大としてはかなり易しい文章ですが、「東大でどのような解答が要求されているか」を実感するのに良い教材です。本番では解答に文字数の指定はありませんが、今回は全て20〜40字とし、30分を目安に解いてみてください。

次の文章は、千人の後をもつ大王が、一人の後(菩薩女御)に愛情を傾け、その后が懐妊したという話に続く場面である。これを読んで、後の設問に答えよ。

九百九十九人の后たち、第一より第七に当たる宮に集まり、いかがせんとぞ歎なげき合はせられける。ただ注しこの王子の果報のほどを知らんとて、ある相人まうじんを召して、この王子のことを問はれけり。「菩薩女御の孕はらみたまへるは、王子か姫宮か。また果報のほどを相し申せ。不審におぼゆる」とありければ、相人、文書を開き申しけるは、「孕みたまへる御子は王子にておはしますが、御命は八千五百歳なり。国土安穩にして、この時、万民みな自在快樂けらくの王者にあるべし」とぞ占ひ申しける。后たち相人に仰せられけるは、「この王子の御事をば、大王の御前にて我らが言ふままに相し申せ。禄は望みにしたがふべし。この王子は、生じたまひては七箇日といはば、九足八面の鬼となりて、身より火を出いだし、都をはじめとして、一天をみな焼失すべし。この鬼は三色にして、身長は六十丈に倍すべし。大王食はれたまふべし。また言はく、「鬼波国きばこくより九十九億の鬼王来りて、大風起こし、大水出だして、一天をばみな海と成すべしと申せ」とて、おのおのの分々にしたがひて、禄を相人に賜ふ。あるいは金五百両、あるいは千両なり。しかのみならず、綾錦あやにしきの類は莫大なり。相人は喜びて、「承りぬ」とて答へ申しける。后たちは、「あなかしこ、あなかしこ」とぞ口秘くひしめしたまひける。相人、「いかでか違へたてまつるべき」と申し立

強者の戦略

つ。

中一日ありて、后たち、大王の御前に参りて、申し合はせられけるは、「後の御懐妊のこと、王子とも姫宮ともいぶかし。早く承らん。相人を召して聞こしめすべし。余りにおぼゆるものかな」。時にしかるべしとおぼしめして、件くだんの相人を召す。后たち、仰せられける菩薩女御の御産のことを、何の子ぞと申せと言ひながら、約束を違へんずらんと、おのおのの心内はひとへに鬼のごとし。相人は注雑書を開きて目録を見たてまつるに、王子の御果報めでたきこと申すに及ばず、この後の御年齢はいかばかりと申すに、三百六十歳とおぼえたり。やがて相人は目録にまかせて見れば、涙もさらに留まらず。これほどめでたくおはします君を、あらぬ様に申さんことの心憂さよとは思へども、前の約束のごとく占ひ申しけり。大王はこのことを聞こしめし、「親となり、子となること、かたまたまもありがたし」。注この世一つならぬこと。今日までに子といふ者いまだ見ず。いかなる鬼とも生まれ来らば来れ。親と子と知られ、一日も見て後にともかくもならぬことは苦しからじ」とて、御用ゐもなかりけり。

(『神道集』)

〔注〕(1) この王子——これから生まれてくる子のこと。

(2) 雑書——運勢・吉凶などを記した書。

(3) この世一つならぬこと——この世だけではない、深い因縁があることなのだ。

設問

- (一) 傍線部ア・イを現代語訳せよ。
- (二) 傍線部ウ「相人を召して聞こしめすべし」について、何を「聞こしめす」というのか、内容がわかるように現代語訳せよ。
- (三) 傍線部エ「約束」の内容を簡潔に記せ。
- (四) 傍線部オ・カ・キを現代語訳せよ。

強者の国語・〔漢文・解答編〕

東大としてはかなり易しい文章でしたので、全体の内容はほぼ理解できたと思います。最後の大王の発言を除いては特に難しい部分もなく、その分だけ解答の際にどれだけの確な記述が書けたかが勝負でした。

現代語訳を書く際には、特に指示がなくとも「主語・目的語」などを補い、自然な日本語となるよう注意しましょう。勿論、文法事項や単語などに出来るだけ忠実に訳すことは鉄則です。

また、最後の大王の発言を解釈する際は、傍線部だけに拘るのではなく、発言全体を見て趣旨を踏まえることを意識してください。

〈解答〉

- (一) ア・菩薩女御の子の運命の様子を占って申し上げよ。
イ・どうして約束を違え申しあげましょうか、いや違えませぬ。
- (二) 占い師をお呼びになつて菩薩女御のお子様か王子か姫君かをお聞きなさいませ。
- (三) 王子が生後すぐに鬼となり、全世界を滅ぼすという嘘の占いを、大王に申し上げること。
- (四) オ・これほど運命がすばらしくいらつしやる王子を、ひどく申し上げることの心苦しきよ。
カ・偶然に起きることではない(めったにない)
キ・一日でも親子で対面した後にならうと構うまい

〈解説〉

○全体の読解

大王の寵愛を受けた后が懐妊し、その他の后たちがそれを妬むという構図は『源氏物語』の冒頭などでも見られる、典型的な図式と言える。なお、「相人」は本来は「人相を見る人」の意味だが、文脈から「占い師」とは解釈できるだろう。

(一) 傍線部ア・イを現代語訳せよ。

ア・イとも単に逐語訳するだけでなく、アは「誰の」果報なのか、イは「何を」違えるのか明示すること。なお、アの「相し申せ」は、模範解答では「申せ」を本動詞として解釈しているが、補助動詞として解釈して「占い申し上げよ」としてもよい。

(二) 傍線部ウ「相人を召して聞こしめすべし」について、何を「聞こしめす」というのか、内容がわかるように現代語訳せよ。

傍線部直前の記述から、菩薩女御のお腹の中の子が王子か姫君かを確かめようという趣旨の発言だと理解する。この時点で后たちは子どもの性別を知らないことになっており、また「運命を占おう」とは発言していないため、傍線部アのように「王子の運命」を聞こしめす、と書かないこと。

(三) 傍線部エ「約束」の内容を簡潔に記せ。

「約束」が后たちと占い師の「約束」を指すことは明白だが、簡潔にまとめるのがやや難しい。「嘘の占いを大王に申し上げる」点を中心に、占いが「菩薩女御の王子」に関するものであり、しかも破滅的で酷い内容である点には触れたい。模範解答では「生後すぐに鬼となり、全世界を滅ぼす」のようにある程度具体的に述べているが、「破滅的な状況をもたらす」のように抽象化してまとめてもよい。

強者の戦略

(四) 傍線部才・カ・キを現代語訳せよ。

傍線部才は、「めでたくおはします」について「運命・宿縁がすばらしい」と明示することと、「あらぬ様」について「ひどい、破滅的な占い」と分かるように訳す点に注意する。

傍線部力は、直訳すると「偶然でもめつたにないことだ」となるが、前後の文脈から、「大王と王子が深い宿縁で結ばれていた」「偶然ではない」ことを表す表現だと理解しよう。表面的な訳ではなく、意味が伝わるように書くこと。

傍線部キは、直訳すると「一日でも見て後にあれこれとなるようなことは苦しくないだろう」となるが、意味が伝わりにくいので、まず「一日でも見て」を「親子(大王と王子)の対面」と明示する。次に「あれこれとなる」は「どうなるう」と意訳しよう。直前に「来れば来れ」と、命令形の放任用法(「どうにでもなれ」という気持ちを表す)が用いられていることも参考になる。最後に古文単語「苦し」は「苦しくない・苦しゅうない」などの形で「不都合はない・構わない」と訳せるため、「苦しからじ」は「不都合はないだろう・構うまい」と訳す。

〈現代語訳〉

九百九十九人の后たちは、第一から第七に当たる宮殿に集まり、どうしようかとお互いに嘆き合いなされた。ただこれから生まれてくる王子の前世からの宿縁の様子を知ろうと行って、ある占い師をお呼びになり、この王子のことをお聞きになった。(后たち)「菩薩女御が懐妊なされたのは、王子か王女か。また運命の様子を占って申しなさい。疑わしく思われる」とご質問があったので、占い師が(占いに関する)文書を開いて申し上げるのは、「懐妊なさっている御子は王子でいらつしやるが、ご寿命は八千五百歳である。国土は安泰であり、この王子が王位にある時は、万民がみな思い通りに楽しく暮らせるような王者となるだろう」と占い申し上げた。后たちが占い師に仰るには、「この王子に関することを、大王の御前で私たちが言う通りに占い申し上げよ。褒美はお前の望みに従うつもり

強者の戦略

だ。この王子は、生まれなさってから七日間となると、九足八面の鬼となつて、身体から火を出し、都をはじめとして、全世界を全て焼き尽くすだろう。この鬼は三色で、身長は六十丈の倍あるだろう。大王は食われなさるだろう」。また言うには、「鬼波国から九億の鬼王が来て大風を起こし、大水を出して、全世界をみな海にしてしまうだろうと申し上げなさい」と言つて、后たちは各々の分に従つて、褒美を占い師にお与えになる。ある后は金五百両、またある后は金千両である。それだけでなく、綾錦などの織物の類いは莫大である。占い師は喜んで、「承りました」と返事を申し上げた。后たちは「決して、決して」と口止めなされた。占い師は「どうして約束を違え申し上げましょうか」と申し上げて立ち去つた。

中一日あつて、后たちは大王の御前に参上して、一緒に申しあげなされたことには、「後の御懐妊のこと、王子か王女か気がかりです。早く承りたいです。占い師をお呼びになつてお聞きなさい。あまりに気にかかるものですこと」。その時大王もつともなことだと思ひになつて、件の占い師をお呼びになつた。后たちは、(事前に)仰つていた菩薩女御のお産のことを、子はどちらか申し上げよと言ひながら、約束を違えないだろうかと、各々の心のうちはまるで鬼のようである。占い師は雑書を開いて目録を拝見すると、王子の運命のすばらしいことは申し上げるまでもなく、この後の御寿命はどれほどかというと三百六十歳と思われる。そのまま占い師は目録にまかせて見ると、涙も全くとまらない。これほど運命がすばらしくいらつしやる王子を、ひどく申し上げることの心苦しきよとは思ふが、以前の約束のように占つて申し上げた。大王はこのことをお聞きになつて、「親となり、子となることは、偶然には起こらないことだ。この世だけではない、深い因縁があることなのだ。今日まで子というものをまだ見たことがない。どのような鬼であっても生まれてくるものならば生まれてこい。互いに親と子と知り、一日でも親子で対面した後にならうと構うまい」ということで、(占い師の助言を)採用なさらなかつた。